

1、 単元名・教材名

平和のとりでを築く  
自分の考えを発信しよう ―インターネットと学習―

2、 単元目標

- 「平和」についてさらに考えるために調べたり話し合ったりし、深まった考えを分かりやすく組み立てて書いて交流する。また、今後も考え続ける意欲をもつ。
- 筆者が訴えたいことを読み取り、それについて自分の考えをもつ。
- 「平和」についての自分の考えを明確にするために、調べたり話し合ったりし、深まった考えを分かりやすく組み立てて書くことができる。

3、 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

高学年における「C読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」となっている。その内容として、「イ目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。」「エ書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと。」を中心として学習を進めていきたい。

また、「B書くこと」の目標は、「目的や意図に応じ、考えたことなどを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。」となっている。その内容として、「ア目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと」「ウ自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組み立ての効果を考えること」を中心として学習を進めていきたい。

〈子どもの「切実な問題」を見取った授業づくりについて〉

「戦争」についてイメージすることは暗いイメージのことが多いと考える。また、児童の生活から遠く離れた過去の出来事となってきている。「平和」についてイメージすることは明るいイメージのことが多いと考える。しかし、児童の生活と平和が隣り合わせになっているかどうかということについては、考えが多様であると思われる。本単元では、「平和」について自分の考えをもち、発信していく。その際、誰にとつての「平和」なのか、「平和」とはどんなことなのか、「平和」にするためにはどうすればいいかなど、視点をはっきりさせて考え、表現していけるようにしたい。

本単元での大きな流れを以下のように考えている。

- ① 学習の見通しをもつ
- ② 教材文を読み取り、筆者の伝えたいことを考える
- ③ 「平和」についての自分の考えを文章で表現する
- ④ 自分の考えを発信する

学習の見通しをもつ段階では、本単元の最後には自分の考えを広く発信することを意識させていきたい。常に自分の考えを書いて表現することを意識させ、学習を進めていく。

続く段階では、教材文を利用し自分の考えについて構成を組み立てて書く方法を理解させていく。筆者がどのような思いでもって段落を構成しているかをしっかり読み取らせていく。その手立てとして、段落ごとの要点、要旨、要約文をまとめる際、学び合いで検討した文中のキーワードを使いながらまとめる学習を中心に行いたい。自力で要約する力をつけていきたいと考えている。読み取った要旨について自分の考えがもてるようにしていきたい。児童に自分で考えさせるため、以下の2点を読み観点とする。「①段落の中心の一文に線を引く。」「②その文での主語が文末になるように体言止めでまとめる。・主語と述語・他の段落にない言葉・読みの課題と合

わせる」このことによって、実際に書くときの手立てになるよう指導していきたい。また、文末表現に注目させ、思いを伝える文章を書く時の表現の仕方を押さえておきたい。

書いて表現する段階では、読み取った内容や表現を活かし、効果的に表現をさせていきたい。段落構成の工夫や自分の思いを明確に伝えることができるように書くことができるようにしていきたい。推敲の場面では、友だちと互いに読み合うなどの活動を取り入れていきたい。

<ひびき合いについて>

単元全体で「平和」について考えていく中で自分の考えをもつことができ、深めていくことができるようになることをひびき合いとしてとらえていく。「平和」についてあまり考えたことのない児童や、「平和」であることは難しいと考えている児童が、様々な考えのあり方を受け入れていけるようにしていきたい。本時においては、10段落での世界遺産と11段落での世界遺産の意味を考えさせ、話し合っていくことで、筆者の原爆ドームに対する思いに触れさせていくようにしたい。教材文を個人で読み深めたものを交流していく中で、友だちの読みを知り、自分と違った友だちの読みを理解しようとしたり、自分と同じ読みをしていることを理解したりする。そのことで筆者の伝えたいことをより深く考え、思いに近づいていくことができると考える。

#### 4、 単元指導計画

(全16時間)

次・時	学習活動	評価基準
第1次 学習の見通しをもつ	① 名について考える 説明文の読み、情報収集、自分の考えの発信という流れを知る	
第2次 教材文を読み、筆者の伝えたいことを考える	②全文を読み、読みの課題を共通確認する。 ③④文章構成を確認する。(本時) 2/2 ⑤⑥課題に対する自分の読みをまとめる ⑦筆者の伝えたいことについて話し合う。 ⑧筆者の伝えたいことに対しての自分の考えをまとめる。	【読】筆者の考えと事例をとらえ、自分の意見や感想をもっている。 【関】筆者の訴えについて自分なりの考えをもとうとしている。
第3次 自分の考えを発信する	⑨戦争や平和について自分の考えを発信する目的と相手、課題、方法を考える。 ⑩⑪現在の時点で考えていることを「仮の要旨」としてまとめ、それに説得力をもたせる材料を集める。 ⑫⑬集めた材料をもとに、「仮の要旨」を「確定した要旨」にまとめ直す。 ⑭自分の考えを書きまとめる。 ⑮推敲し、発信する。	【関】「平和」について読んだり、話し合ったり、書いたりしようとしている。 【書】自分の要旨に説得力をもたせるために必要な材料を集めている。 【書】集めた材料の中から必要なものを選択し、自分の意見が伝わるように組み立てを考えている
第4次 学習をまとめる	⑯学習を振り返る。	

#### 5、 本時について

##### (1) 本時の目標

○9・10・11段落を読み、要点をまとめることを通して、世界遺産としての原爆ドームに対する筆者の思いを読み取ることができる。

##### (2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点・【評価規準】
<p>○前時までの学習を想起する。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。  <b>原爆ドームが世界遺産になった時の筆者の思いを  考えよう</b></p> <p>○学習範囲を音読する。</p> <p>○9～11段落の要約を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9段落 <ul style="list-style-type: none"> <li>・原爆ドームを世界遺産にしようとする動きが高まり、世界遺産に指定された。</li> </ul> </li> <li>・10段落 <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界や日本の世界遺産について書いてある。</li> <li>・世界遺産の意味について書いてある。</li> </ul> </li> <li>・11段落 <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の不安について書いてある。</li> <li>・平和を求める気持ちを感じたことが書いてある。</li> </ul> </li> </ul> <p>○筆者の不安について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原爆ドームが戦争の被害を強調する遺跡であること。</li> <li>・規模が小さいこと。</li> <li>・歴史が浅いこと。</li> <li>・世界の人々に認めてもらえるかどうか。</li> </ul> <p>○筆者の原爆ドームに対する思いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平和を求める気持ちの強さを感じられて本当によかったと思っている。</li> <li>・これまでの世界遺産より規模が小さいのに世界遺産に選ばれてよかったと思っている。</li> <li>・これで手厚く保護されるからよかったと思っている。</li> </ul> <p>○学習をふりかえる。</p> <p>○次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでまとめてきた各段落の要約を確認する。</li> <li>・筆者の原爆ドームに対する思いを考える学習であることをつかませる。</li> </ul> <p><b>【読】</b> 学習範囲をはっきりと読むことができる。</p> <p><b>【読】</b> 着目すべき言葉が理解できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各段落で、中心となる言葉や文章にサイドラインを書くようにする。</li> <li>・10段落は世界遺産についてしか書かれていないことを確認する。</li> <li>・11段落に不安が書かれていることに気づかせる。</li> <li>・これまでの世界遺産と原爆ドームが対比の関係であることに気づかせる。</li> </ul> <p><b>【関】</b> 進んで発言できている。</p> <p><b>【読】</b> 筆者の思いについて、自分なりの考えをもつことができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「しかし」に注目し、筆者の思いを考えさせる。</li> </ul> <p>・自己評価する。</p>

## 6、 実践を終えて

### ☆子どもたちと単元をつくっていくこと

「平和」を考えるということについて、自分自身の生活、日本、世界というように徐々に視野を広げて考えていくようにした。「今の日本は平和ではない」と考える児童が多く見られた。その考えをもって、「筆者はどのように考えているか」を学習課題とした。その他、「広島市民の気持ちを考えること」「原爆ドームの歴史を読み取ること」「世界遺産の意味」を考えていこうと話合っって課題を設定してきた。教材文の読み取りを活かし、最終的に自分の「平和について考えること」を書いて表現しようということをめあてとして学習を進めた。

#### ☆子どもたちにとって切実な問題となったか

原爆ドームの歴史を読み取っていくこと、教材文の要旨をまとめていくことについて、児童の切実な問題となったとは言えない。原爆ドームについての資料や戦争に関する本などを意欲的に手に取り読んでいる児童も見られたが、教材文を課題に沿って読み進めることとうまくつながらなかった。自分の考えを全体で表現する段階において、話し合いの広がりが見られなかったことは、子どもたちの戦争や平和について考える動機づけができていなかったことが考えられる。

#### ☆成果と課題

「ひびき合い」については、「平和」について自分の考えをもち、話し合いの中でそれを深めていくこととらえ学習を進めた。成果としては、子どもたちが世界の平和について考えていく中で、そのためには自分はどういうことができるだろうかということを考えていたことが挙げられる。課題としては、友だちとの関わりをよりもつべきであったと考える。一人読み、書き込みなど個人で教材文を読み取っていくことにできるだけ時間をかけてきた。そこで持った自分の考えを全体で交流させる段階で友だちの意見を聞きたいという思いが少なかったことが、話し合いが広がらなかった原因と考えている。

全体が課題を追求しようとする思いになるような関わり合いの仕方を工夫すること、児童が自分の考えを発信したいと思える単元の流れを構成することが、よりよいひびき合いのための課題と考える。